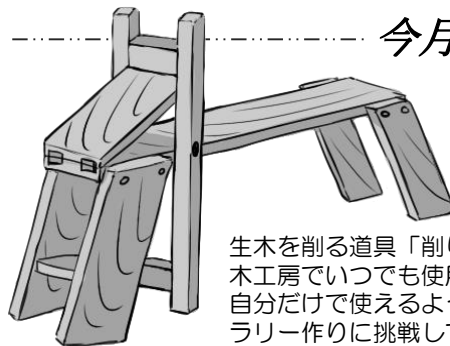


月	火	水	木	金	土	日
月火曜日は 休館日				1	2	3
4	5	6	7 陶芸教室 夜間開放	8	9	10
11	12	13	14 陶芸教室 夜間開放	15	16	17
18	19	20	21 陶芸教室 夜間開放	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
年末年始の休館1月6日まで						

開館時間 9:30~17:00 ※(木)のみ~20:30

今月のご案内

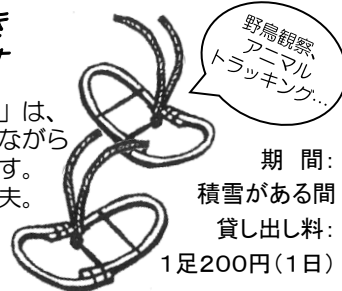


~木工房で
削り馬の体験
できます

生木を削る道具「削り馬」。12月は木工房でいつでも使用する事ができます。自分だけで使えるようになったら、カトラリー作りに挑戦してみるのもいいも？

~「渋谷式」かんじき 今年も貸し出します

黒松内名物「渋谷式かんじき」は、故・渋谷吉尾爺が改良を重ねながら完成させた桑材のかんじきです。とてもはきやすく、軽くて丈夫。町内のブナ林や森林公園で冬の森歩きはいかがですか？



野鳥観察、
アニマル
トラッキング...

期間：
積雪がある間
貸し出し料：
1足200円(1日)

工房からのお知らせ

ブナセンターには3つの工房があります

木工房：開館時間中は随時利用できます

陶工房：初めての方は教室にご参加ください

食工房：主に冬期間、町内のグループが味噌や豆腐を作ります(興味のある方はまずは見学を)

使用料 210円(大人1名2時間)~
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

工房利用についてくわしくはお問合せください

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります

毎週木曜日 18:30~20:30

材料費は
かかります

陶芸教室 初心者向けの教室です(予約制)

毎週木曜日 13:30~15:30
18:30~20:30

参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに
3回の来館が
必要です*

※①作品作り②素焼き後の色づけ③完成品の受取り
①~③まで2ヶ月程度かかります

くまづないの
自然いちおし情報

冬を生きのびる白黒の小鳥たち

秋から冬にかけて、カラ類(シジュウカラ、ハシブトガラ・コガラ、ヒガラ、ゴジュウカラなどの小鳥の総称)やシマエナガ、コゲラなど様々な種類の鳥たちが群れになって行動しており、この群れを「混群」と呼びます。混群をつくるのは、たくさんの眼で効率よくエサを探し、敵を見張り、冬という厳しい環境を生き抜くためです。

冬の森を歩いて、イラストのような様々な小鳥たちを観察してみてもは？

モノトーン

正面から
見ると...

シジュウカラ



お腹にネクタイのような黒い線の模様。

コガラ
ハシブトガラ



くちばしの下にあごひげのような模様。

シマエナガ



小さなからだ長い尾が特徴。肩のあたりに赤茶色の部分も。

ヒガラ



くちばしの下にまえかけのような模様。



Facebookは
こちらから

ブナの葉が黄色に染まり始めた頃、町内に霧のようなものがかかりましたね。雪でも霧でもないもの…「雪虫」です。雪虫はいったい何者なの？どこからきているの？など、様々なギモンを調べてみました。
※ブナセンターHPからカラー版が見られます。

雪虫

ゆむし
きし

1 「雪虫」の正体

どちらも、植物の汁を吸ってくらす、カメムシ目アブラムシ科の虫です。

トドノネオオワタムシ ケヤキフシアブラムシ



ケヤキフシアブラムシより白い綿のようなもの(口ウ物質)が大きく、体も大きい。

青白い体色だが、白い綿のようなものは見えず、トドノネオオワタムシよりも体が小さい。町で大量発生し、霧のように見えていたのはこちらの雪虫。



ヤチダモの樹皮の隙間に集まるトドノネオオワタムシ。雪虫から生まれた子たち。オスとメスで色が異なる。



←ケヤキ(植栽木)に集まるケヤキフシアブラムシ。木がまるごと一本灰色に染まっていた。地面にも集まっており、近づくと全身が雪虫につつまれた。



2 彼らはなぜ飛んでいるの？

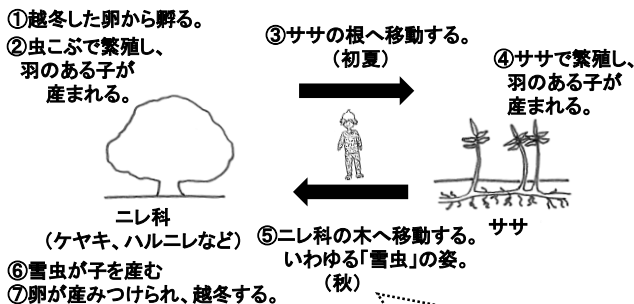
「雪虫」と呼ばれるこれらの虫は、1年の間に何世代も交代しながら、繁殖のために夏と秋の計2回移動します。

トドノネオオワタムシはヤチダモなどのモクセイ科の樹木で生まれ、初夏にその子の代がヤチダモからトドマツへ、秋に孫の代が白い綿をつけた「雪虫」と呼ばれる姿でトドマツからヤチダモへ移動します。雪虫はヤチダモでオスとメスの子を産み、子が産んだ卵が越冬して、春から同じサイクルが繰り返されていきます。

ケヤキフシアブラムシはケヤキなどのニレ科の樹木で生まれ、初夏にケヤキからササへ、秋に「雪虫」の姿でササからケヤキへ移動します。

つまり、私たちが秋に見た雪虫たちは、繁殖のために木から木へ移動しているところだったのです。

図解：今回大量発生していた、ケヤキフシアブラムシの場合



この時、私たちは雪虫まみれになる。

3 ケヤキの自生しない北海道で、ケヤキフシアブラムシはどうしてる？



ケヤキと同じニレ科のハルニレで集まっていた。ケヤキに集まっていた数と比べればとても少ない。すべてのハルニレの木にいるわけではなく、好みがある様子。



樹皮の隙間では雪虫から生まれたオスとメスの子も観察できた。肉眼では形が分からないほどに小さい。

自然はなぜでいっぱい！
気になった時は観察しに行ってみましょう！

